

天平の甍

鑑賞日 2017・6・26

制作 1980年 『天平の甍』製作委員会

上映時間 152分

配給 東宝

監督 熊井 啓

原作 井上 靖

脚本 依田義賢

出演 田村高廣、中村嘉葎雄、大門正明、浜田光夫、草野大悟、井川比佐志、藤真利子、
高峰三枝子

(あらすじ)

天平5年(733年)春、若い日本人僧、普照(中村嘉葎雄)、栄叡(大門正明)、玄朗(浜田光夫)、戒融(草野大悟)の四人が第九次遣唐使船に乗って、大津浦を出航した。留学僧に選ばれた名誉と、再び生きて日本の土を踏めるかという不安が一行を包む。特に普照は美しい許婚者平郡朗女(藤真利子)と苦悩の末、別れての出発である。この時期、日本最大の課題は律令国家の建設であり、仏教界の確立であった。四人は唐の高僧の渡日要請の任務を持って洛陽に入った。一行は玄宗帝に迎えられた。そこで、挫折した留学僧や経典を正しく日本に伝えるため、写教に一生を賭している業行(井川比佐志)などに会う。四人は玄宗帝に従い、洛陽から長安に移るが、渡日を快諾してくれる高僧にはなかなか会えない。この間、戒融は仏陀の真理を知るために一人旅立っていった。日本を出てから10年目、一行は栄叡と同じ大安国寺の僧道抗を通じて道抗の師の鑒眞和上(田村高廣)を知る。和上は一同の熱意に渡日を表明する。しかし、日本人僧の帰国渡航は非合法であり、まして、中国人僧が渡日することは許されることではなかった。普照らの行動は張警備隊長に監視されることになった。栄叡と道抗は密出国の首謀者として逮捕され、自信を失った玄朗は一行から離れていった。

三年後、道抗は獄死し、栄叡は釈放された。天宝7年、和上は渡日を決行するが、暴風に遭遇して失敗、栄叡は疲労と熱病で死亡する。その頃、奈良朝廷は第十次遣唐船の出航を決定、四人が出てから二十年が経っていた。普照は還俗した玄朗からこの話を聞き、駐唐大使、藤原清河を訪ね、和上の渡日を要請した。一方、和上は度重なる疲労から失明していた。そして、一同の情熱に張警備隊長の温情もあって、普照らは日本に向かう船に乗った……

(解説)

天平時代、日本の仏教界は規律がゆるみ、戒律も整っておらず、仏教界の確立が喫緊の課題であった。そのためには、伝戒の師を招聘せねばならず、第九次遣唐使船には中国の高僧を日本に招聘する役割を帯びた四人の学僧が選ばれた。この映画は彼ら四人の苦難の物語である。井上靖の原作『天平の甍』の映画化は熊井啓監督の悲願であった。熊井監督は長年にわたり中国側と折衝を続け、中国側の全面的な協力を得て、中国で本格的なロケを行い、壮大な歴史ロマンを完成させた。